

地域の寺子屋推進フォーラム

報告書



日時 令和2年12月13日(日) 14:00~16:00
(寺子屋パネル展 11:00~13:00)

場所 川崎アゼリアサンライト広場

主催 川崎市教育委員会
協力 川崎アゼリア株式会社
映像のまち・かわさき推進フォーラム
日本映画大学

参加者数 第1部・第2部 47名 (定員47名)
パネル展来場者 89名

平成26年度から始まった地域の寺子屋事業を更に拡充すること、充実させることを目的とし、「地域の寺子屋推進フォーラム」を開催しました。

今回は、より多くの市民の皆様にご覧いただくため、川崎アゼリアのオープンスペースを会場として開催し、寺子屋を運営している方、学校関係者、市民の皆様と寺子屋について考えると共に、御通行の市民の方が足を止めて話を聞いてくださるなど盛会の中終了しました。

その様子をまとめたものを作成いたしましたので、ご覧ください。

今後も寺子屋事業への御協力、御支援をよろしくお願いいたします。

11:00~13:00 寺子屋パネル展



寺子屋推進フォーラムに先立ち、会場で寺子屋パネル展を開催しました。現在開講している各寺子屋の学習支援や体験活動の様子をわかりやすく写真や文章でまとめていただいたものを展示し、寺子屋関係者や会場付近を通行している市民の方などに御覧頂きました。

今後、各市民館などでもパネル展を行い、広く市民に寺子屋事業について周知していく予定です。

14:00~16:00 寺子屋推進フォーラム

川崎市長 福田 紀彦 挨拶

みなさん、こんにちは。今日は大変お忙しい中、このように多くのみなさんに推進フォーラムに御参加いただき誠にありがとうございました。

例年ですと、みんなで車座になって、或いは小さなグループ単位で寺子屋について議論するのですが、さすがにコロナ禍とあってそういう形はできないので、このアゼリアの一番人通りのいい所で会議をやって、そして地域の寺子屋について「え、何をやっているのだろうこの会議は。なになに？地域の寺子屋って何？」というふうに関心をもっといただくことと、そして、それをきっかけにもっともっと広がってもらいたいな。と思っております。

おかげさまで市内62校に寺子屋ができています。6年前から「ぜひ、一気につくろうとは思わないでほしい。」ということはずっと言ってきました。目標は高く、でも地域の実情に合わせてちょっとずつ地域のみなさんが盛り上がってきたら、「私達の学校でもやってみようよ。」ということが自然派生的にできていくということが一番好ましいという風に思っています。ただ、まだまだ地域で知らない方、或いは「こういう地域の寺子屋、あってほしいけど、まだうちの学校にはないな。でも寺子屋先生にどうやったらなるんだろう、どうやったら寺子屋を開けるんだろう。」と思っている方もたくさんいらっしゃいます。



是非、今日はこの私達の議論を周りの人達にも聞いていただくと同時に、ここを通過される方たちが、「川崎ってこんな取組をやっているんだ。そしてこういう人達が支えていて子ども達に素晴らしいことをやっけていただいているんだな。」ということを知ってもらうきっかけになればいいな。と思っています。

第1部では、4団体から取組を御紹介いただいて、そして第2部は、私はコーディネーター役をさせていただいて、4人の識者のみなさんからいろんな意見交換をざっくばらんにしていただきたいと思っています。今日お集まりのみなさんも是非この議論の輪に入っていただきたいと思いますので、皆さんの御協力をいただきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

寺子屋事業について説明

寺子屋事業についての説明を寺子屋事業担当者がパンフレットを用いて行いました。

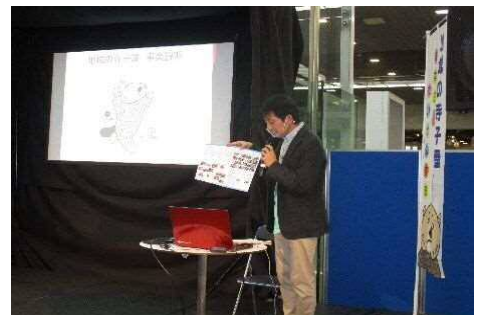
まず、寺子屋事業の3つの目標である

- 地域ぐるみで子ども達の学習や体験をサポートする仕組みづくり
- シニア世代をはじめとする地域の様々な方の知識と経験を活かした、多世代で学ぶ生涯学習の拠点づくり
- 子ども達に豊かな学びや体験の機会を提供することによる学ぶ意欲の向上や豊かな人間性の形成

を伝え、地域にお住まいの様々な方のお力をお借りして、地域の子どもたちを育てていこう、見守っていこうとする仕組みづくりをするもので、平成26年度にスタートし、現在7年目を迎えている事業だという説明をしました。

次に、寺子屋事業の説明を行いました。寺子屋事業は、教育委員会が地域の団体に事業を委託し、学校施設等を活用しながら、放課後週1回の学習支援と、土曜日等に月1回の体験活動を実施していることや子ども達の学習や体験をサポートしてくれる「寺子屋先生」を地域から募っていることを伝えました。

最後にパンフレット内にある学習支援や体験活動の様子の写真を説明し、寺子屋は子ども達の学習意欲を培う場であり、地域の大人や違うクラス・違う学年の子どもとの交流を通じて人と関わる力を養う場となっていることや、子どもだけでなく、保護者も含めて地域の大人同士もつながり、学び合う場となっていること、寺子屋が、単なる子どもの学力向上事業ではなく、地域ぐるみで子どもを育てる仕組みづくりをする事業としていきたい。という思いを伝えました。

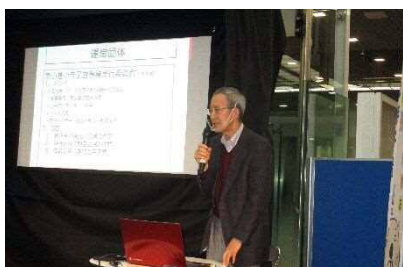


教育委員会事務局生涯学習推進課
指導主事 高橋 徹



第1部 寺子屋の魅力紹介 ～ 事例発表 ～

【寺子屋コーディネーターによる事例発表】



東小倉小学校寺子屋
中島 守 さん
(東小倉小学校)



プラス1
生駒 みを さん
(菅生中学校区)



寺子屋デフ☆キッズ・ポッケ
原 康夫 さん
(聾学校)

第1部は、3つの寺子屋コーディネーターによる寺子屋の事例発表から始まりました。東小倉小学校寺子屋コーディネーターの中島さんは、校区の自治会や町内会などが中心になって寺子屋を運営していることや、寺子屋事業で子どもを通して地域住民のつながりが生まれたということなどを発表しました。

中学校からの事例発表はプラス1コーディネーターの生駒さんが行いました。寺子屋事業が始まる平成26年度以前から地域教育会議の活動として菅生中学校で学習支援を行い、それを継続して寺子屋事業でも行っているという話がありました。

令和2年度に特別支援学校初の寺子屋が聾学校に誕生しました。その聾学校寺子屋、デフ☆キッズ・ポッケコーディネーターの原さんが、手話で発表を行いました。「寺子屋での経験で、耳が聴こえない、聴こえにくい子ども達が自信をもってほしい。」という思いを述べました。参加者の中には、他の寺子屋コーディネーターや寺子屋先生が多くいらしゃり、3名の話に聞き入り、共感できる話にうなづく様子が見られました。

【寺子屋体験活動 事例発表】

寺子屋コーディネーターの事例発表の後、寺子屋の体験活動を行っている「映像のまち・かわさき」推進フォーラムの寺川さん、森さんから寺子屋での映像制作体験の様子をお話いただきました。



子ども達の映像制作は、大人が驚くことの連続で映像を撮影、編集の作業を体験する中で子ども達のアイデアは無限大であるという話をしていました。発表の中で実際に子ども達が撮影・編集した映像が上映され、参加者もその映像を見て思わず笑顔になりました。



第2部 トークセッション 「寺子屋がめざすもの」 ～市長と話そう 地域の寺子屋～



進行 福田 紀彦 市長
 登壇者 宮越 隆夫 さん (臨港中学校区地域の寺子屋)
 眞壁 総子 さん (東菅・登戸 寺子屋)
 宮嶋 普子 さん (西生田寺子屋実行委員会)
 小田嶋 満 教育長

○ トークセッション内容 *敬称略、自己紹介省略

市長	宮越さんと宮嶋さんは、平成26年度から、眞壁さんは27年度からと一番早い段階から寺子屋に取り組んでいただいておりますが、これまで5年、6年やってきて、寺子屋をやってよかったな。と思っているところはどこかというところをお話ください。
眞壁	毎週顔を合わせることで段々成長している姿を見ることや、6年生が卒業する前に、寺子屋の最後のときに「ここに通えて楽しかった。」「先生達と学習できてよかった。」と言って卒業してくれたことがあり、それはとても良かったと思っております。
市長	先程、中島さんも、寺子屋卒業証書を出しているという話をしていましたが、もう古い寺子屋は子ども達も一回りしていますよね。
宮嶋	子ども達と一緒に学んだり話したりという楽しい時間が、大人と子どもと共有できるという点が寺子屋をやってよかったな。と思っています。また、寺子屋をやることで地域の様々な方とつながりができるということが運営している私達も大きな励みとなっています。
宮越	私は、子ども達の知り合いがとってもできたということですね。地域の子供達が自分の孫のように感じます。この前、学校の近くを通ったら、寺子屋の子が「あ！寺子屋先生だ！宮越さん！」と大きな声で呼んでくれました。そして、子どもを通して地域の保護者や大人ともつながりができた。そういう意味では、寺子屋は、ほんとにつながりをたくさんつくってくれる、そういう地域の景色を変えてくれる、そんなことが嬉しいですね。
市長	お三方、共通しているのが『地域の子供達が自分の子ども』子どもの成長と一緒に見守っていけるということが喜びになっている。ということですね。 実は、毎年、寺子屋先生側と子ども達にアンケートをとっていて、子ども達が何を一番喜んでいるかという、第1位は、毎年、『学校や塾の先生以外の大人達と触れ合えたこと』、このことを一番の喜びにしています。子ども達がそこに喜びを感じているということに私も大きな驚きと大きな喜びを感じています。
市長	去年のフォーラムで、「ずっと騒いでしまう子がいて寺子屋が崩壊しそうだ。」なんて声も聞きました。でも、それがずっと寄り添って付き合っていくと段々と落ち着いてくるというような話も聞きました。そういった経験はありますか？
宮嶋	子ども達は寺子屋に来るまで、5時間や6時間の授業を受けてきて、寺子屋に来てホッとするから騒いでしまうこともあるのですが、そんな時にどうすればこちらに集中してくれるかということ寺子屋先生とも考えています。
眞壁	私達の寺子屋でも騒いでしまう子がいるため、ある時、スタッフ研修を兼ねて臨床心理士さんに学童期のお子さんについてお伺いしました。今のお子さんは、学校でもいい子でがんばろう、家庭に帰ってもいい子で褒められたいという気持ちが強く、学校でも家でも緊張しているお子さんが多いそうです。 学校の中にいると評価されるじゃないですか、家でも、子ども達の成長を評価することもあると思うんです。でも、寺子屋先生は子ども達を評価するために来ているのではない、だから、そういった意味では何を言っても評価の対象にならないということ子ども達はよく知っている、安心してそこで本音とか本性を出してきます。だから、スタッフはそれを一

	つひとつ受け止めてあげればいい。聞いてあげればいい。という思いでとことん話を聞いていました。何を言われても「そうだね、そうだね。」って言ってあげると段々落ち着いてきたというところがあるので、そういった対応をしています。
市長	ありがとうございます。素敵なコメントいただきました。 『学習支援』という形で始まった寺子屋ですが、出てきた言葉が『いるだけ支援』という言葉でした。そばにいただけで子どもはうれしい、だから話を聞いてくれるだけで寺子屋先生の存在って有難い存在だと感じます。
宮越	今、市長が『いるだけ支援』ということをおっしゃいましたが、これは寺子屋のキーワードになると思っていて、ただ、そこにいて、優しい視線をその子に注ぐだけでその子は成長できる、その子を応援できると思っています。これからの川崎市の寺子屋を象徴する言葉じゃないかと思います。
市長	寺子屋先生の中には、勉強を教えるということは無理かもということをおっしゃる方もいるのですが、決してそうではなく、『見ていてあげる』『いるだけ』『話を聞いてあげる』といっただけでも重要な寺子屋先生の役割だと感じています。 学校の授業で先生が教えるということと、寺子屋の先生方が果たしている役割っていうのを教育長から見てどのように捉えているのでしょうか。
教育長	先程お話があった「子ども達が学校でいい子にしている家庭でもいい子にしている。」ということですが、よくあったのが、家庭ではいい子にしている、その分学校で発散させる、それで問題行動になる。というのがあったのですが、今子ども達は学校でも家庭でもいい子にしている、ずっとそういった姿を演じているとやはり子どもは息苦しくなってきます。その時に、どこかで子ども達が発散する場面がなければ子ども達にとってはつらい日常になってしまうのかなと思います。 先程スライドの中に『評価しない先生』という言葉がありました。話を聞いてくれたり優しく教えてくれたりうなずいてくれたり、「じゃあまたね。」と声をかけてくれる。そういうことによって、子ども達がホッと、本来ある自分の姿を色々出して行って、また明日学校頑張ろうと思える。そういった支援の仕方は学校では中々できない部分で、それを担って頂いている寺子屋の意義というのはとても大きいと感じています。
市長	教育長からも学校の強み、それから地域の寺子屋の強みっていうのがそれぞれにあるという話がありました。それから一部の発表の中にもあったキーワードである「自尊感情」の話、自分が大切にされている、ということを見出す機会に寺子屋がなっていると思います。「勉強難しくなっていた。わからないからついていけない、自分はもうだめなんじゃないか。」ということから将来の希望が失われていく。その自尊感情を寺子屋で少し補完できていると思うのですが、そういう観点から見ていかがでしょうか。
宮嶋	 子ども達とよくやるのが、100マス計算ですが、3年生のお子さんでもまだかけ算をよく覚えていないお子さんもいらっしゃいます。苦手なお子さんは2段3段で止まってしまうような状況なんですけれども、そうなったときに、できないからバツ(X)をつけるのではなく、子どもと向き合いながら一緒にかけ算を言いながら、お子さんがわからなくてもマスに埋めてってもらいます。そうすることで子どもが全部マスを埋めることができ、できないことが少しずつできたという思いを持ってもらえるのではないかと考えています。あとは、漢字ドリルなどを見るときは、漢字が少し丁寧に書かれている時にはものすごく褒めてあげる、逆に書き順などを子ども達から教えてもらおう、そういった所でお互い、子ども達と大人と交流しながらやっています。
市長	『褒める』ってすごく大事ですよ。学校の先生達も全員を見て、「えらいね、すごいね。」と言うことが授業の中ではなかなかできることではないし、寺子屋の中で隣りで丸付けをしてあげる、「きれいにできたね。全部埋められたね」と言ってもらえる、その一言っていう

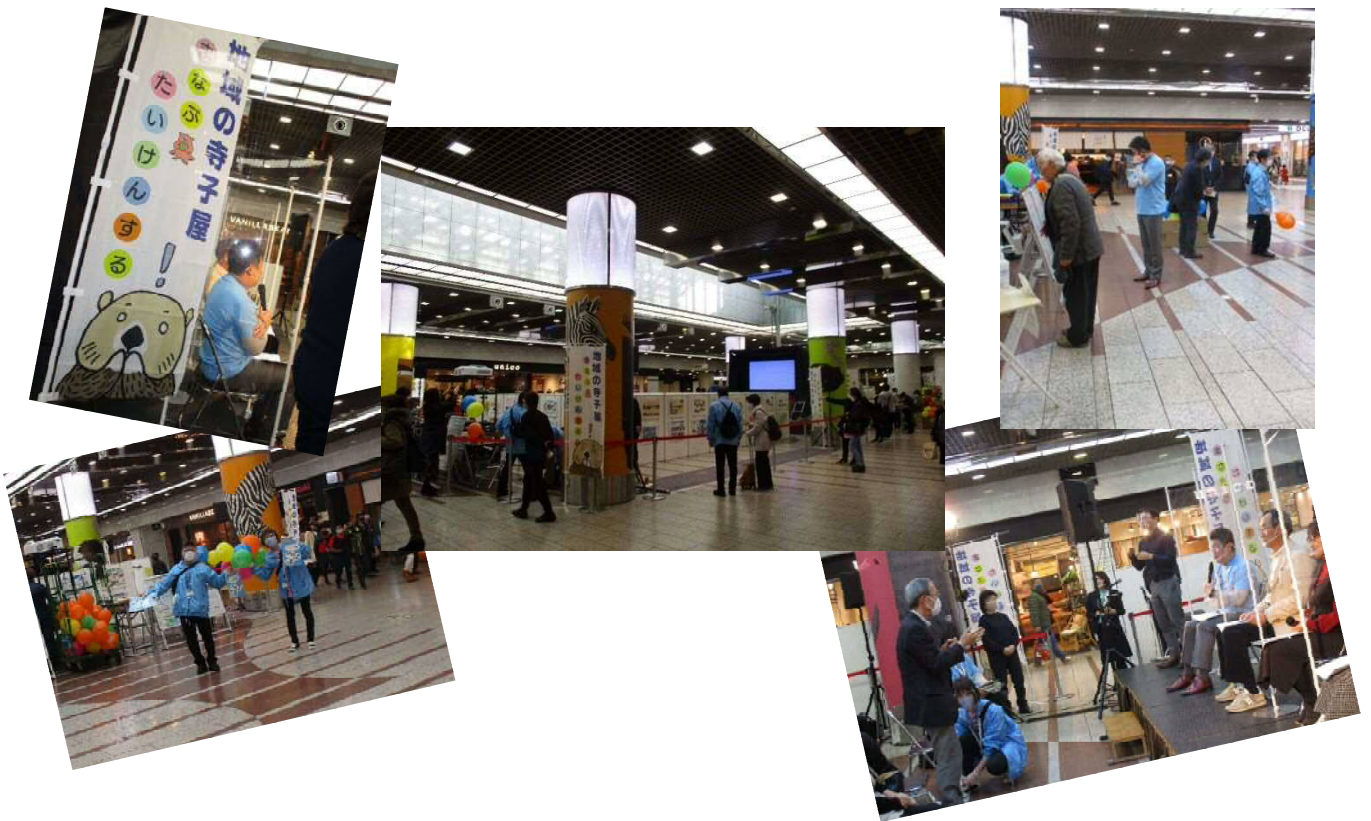
	のが大切なんじゃないかと思いますがいかがですか？
眞壁	どうしてもプリントがやりたくないというお子さんがいるので、ゲームに近いクロスワードパズルなどを出すなどしています。どんなことに興味をもっているのか、得意なのか知識があるのか、話をしながら引き出しています。 例えば、虫の名前だったら何百個言えるといったお子さんがいたら、「先生知らないから、虫の名前教えて。」と聞くとその子がすごく輝いて詳しく教えてくれます。それを今度は友達の前で話してもらおうとか、そういうところで自信を持ってもらうような形にして、「これだけ虫のこと知っているんだから、算数もできるよ！」と言うと「ちょっとやってみようかな。」というようなこともありました。
市長	すごいですね。ぼくも3人子どもがいるのですが、何かとできないことを怒ってしまって、褒めるということを中々親自身も忙しくて言ってあげることができないから、地域の方が褒めてくれるって本当に有難いことと感ずみます。宮越さんのところではどうですか？
宮越	私達も大いに褒めます。体験活動で色々な体験をしているんですが、例えば、今JAXAのロケット、ハヤブサが帰ってきたじゃないですか、JAXAの体験をすると必ず、宇宙飛行士になりたい子どもが出てくるんですね。そういった前向きな気持ちになる経験を大切にしています。 そして、私たちは、10回体験をすると「生きる力初段」を子ども達に与えています。今年の3月に4段、40回目をもらう子がいたんです。でもコロナでまだできていないのですがね。子ども達の中には塾や習い事に行かずにこの寺子屋の体験を頑張ろうという子もいるんですね。そういう前向きな気持ち、好奇心、それが生きる力、自尊感情の向上につながるんじゃないかと思うんです。そんな思いでやっております。
市長	教育長、よく日本の子ども達は自尊感情が低いと言われていますが、そのことについてと、寺子屋に期待することをお聞かせいただきたいのですが。
教育長	川崎市の学習状況調査の中に生活のアンケートをとっています。その中の自尊感情に関する数値が何年前、非常に低い時があり課題となったんです。 教育委員会といたしましても、いま、『共生*共育プログラム』という川崎市独自のプログラムをつくって、小学校1年から高校3年までそれを積み上げていく。など色々な取り組みをしていて近年数値が上がってきています。しかし、まだまだ課題はありわずかでもそのような子がいます。学校でも、教員達は一生懸命子ども達の良さを見つけ、褒めていくというスタンスをとっていますが、それをより多くの大人達の目で見守りながら声をかけて認めて頂くということにより効果が出るのではないかと感じています。
市長	教育長が言われたように、川崎では、自尊感情のところは少しずつ上がっていて、川崎の教育プログラム効果、また、学校の取り組みがすごく大きいと思っています。それと共に、寺子屋などを通じて地域のいろんな皆さんが関わって頂くことで子ども達を育ててほしいと思っています。
市長	寺子屋はいいことばかりではなく、課題もあると思いますがいかがでしょうか。
宮越	地域で寺子屋先生を募集するときに中々集めることができない。教えるということにハードルを感じてしまう方が多くいます。そこは相当苦労しました。そんな中、「将棋しかできない」「紙芝居しかできない」という方もいたんですね。「それでいいです。是非きてください。」と言いました。当初より、教えるというより寄り添うということを大切にしてきたので、間口を広げてハードルを下げて人を集めてようやく開設ができました。色々な方々にこの世界に入ってもらうためには、ハードルを低くすることが大切だと感じています。
眞壁	寺子屋先生の中には高齢の方もいらっしゃるんで、コロナ禍の今は行くのを見合わせる方もいてその人員を確保するのが少し大変だということと、学校との間で連絡を取り合えないことがあり、学校が急に研究授業ですとか面談などになったときに、下校時刻が変わってしまい、それが直前にわかるとアタフタと大変になることがあります。学校との連絡を密に取り合うことが申し訳ないなと思ってしまう、四苦八苦してしまいます。

宮嶋	体験活動で見学にくる親御さんもいるのですが、どうしても子どもがやっていることに、こうした方がいいんじゃないかと我慢できずにやっちゃって子どもが泣いてしまう。というようなことがあったんですね。それを、材料に余裕があったときは、大人の方にも同じように作って頂いていくことにしました。そうすることで親も自分のを作って、子どもは自分の思い通りのものを作って、楽しさを分かち合ってもらう時間をとるようにしています。
市長	親子で参加したら、自分の子の物を見て「なんか、これ出来ていないんじゃないか。」という風に思って、楽しかったものがなんだか全然そうでなくなってしまう、『寺子屋体験活動あるある』のような感じですね。 宮越さんの話にもあったように、寺子屋先生になるためのハードルをぐっと下げて、寺子屋先生を増やしていくといったような話は宮嶋さんのところではどうでしょうか。
宮嶋	寺子屋は、週1回1時間程度の学習支援を行っています。学習支援は、プリントに取り組んだりお楽しみ時間を設けたりしています。寺子屋先生は、地域の方や寺子屋先生養成講座を受講された方などがおります。
眞壁	「先生」という名前が付いているので、来てもらえばすぐわかるんですが、来てもらうまでがハードルが高く悩みの種ではありますね。
宮越	私の所は、『チーム力』ということを中心に心がけていて、寺子屋先生のキャラクターが違うことは私、素敵なことだと思っています。楽器に例えれば、オーケストラって色んな楽器があって、その全体がハーモニーとなると素敵な空間が出来るんですね。寺子屋だと地域の様々なキャラクターがいます。寺子屋が終わった後「大人の寺子屋」と言うんですかね、寺子屋先生同士でも知恵を出し合ったりしてチーム力で運営しています。
市長	素晴らしいですね。フロアから、中島さん、いかがでしょうか。
中島	ハードルは元々高くしてないんですね。宮越さんのおっしゃるように、寄り添えばいいから、と言ってお集まり頂いているんですね。しかし、コロナで10名ほど減ってしまったんです。ところが、また募集したらまた増えてきて寺子屋先生養成講座にも行くという方がいるんです。なぜ増えたかということ、ロコミで「寺子屋って楽しいわよ。」ということを書いてくれるんです。楽しいということがロコミで広がっていること、そして、何より寺子屋先生が生き生きしているんです。だから増えていくのだと思います。
市長	子ども達も楽しんで帰る。ボランティアも楽しんで帰る。これが基本で、両方が楽しくないと中々続かないということですね。準備も大変だと思うのですが、それを喜びとする、楽しくやるということが大切なんですね。この三団体の寺子屋が長く続いているということは、みんなが楽しいという状況をうまく作り出して頂いているんじゃないかなと思います
市長	最後に、本日のテーマでもある「寺子屋がめざすもの」ということについてお一方ずつお話いただけますでしょうか。
宮嶋	子ども達は寺子屋に来て、色々なことに興味関心をもって最後まで取り組む姿を見て私達もすごく元気をもらいます。色々な体験を通して、子ども達には知らないことを知る楽しさや、創る楽しさ、協力する楽しさを感じてもらえたらいいなと感じています。私達スタッフもそういう企画ができるようにこれからも力を合わせてやっていきたいと思っています。
眞壁	毎回来るたびに、「プリントやらない」と言う子がいるのですが、そういう子に限って、必ず来て、皆勤賞なんですね。来て寺子屋先生を捕まえていろんな話をしているんです。そういった意味では、寺子屋がひとつの居場所になっていて、この子が安心して来れる場所になっているんだな。と思います。暴言を言う子も中にはいるので、寺子屋先生が疲れてしまうこともあるのですが、終わってみると、「今日もあの子来てたね。よかったね。」と話すんです。そして今年度の寺子屋の開講の日に、その子が「今年度からどうしてもやりたい習い事が寺子屋と重なって寺子屋に来れないんだよ。去年までありがとう。」とわざわざ言いに来てくれたんです。それを見て、私達はやっていてよかったな。と思い、そういうことを目指していけばいいのかなと思います。



宮越	 <p>誰でもがこういう教育活動に携わることができるっていうのは、一種のイノベーション、教育改革だと思うんです。これは市長の公約の大ヒットだと思います。誰でも関われるっていうのが、この寺子屋のカラーとしてこれからもしっかり打ち出していければと思っています。最近、地域教育会議の中で、田中雅文先生が「学校だけでは子どもは育たない」と言っていました。寺子屋でも、地域教育会議でも地域の誰でもが教育に関われる、そんな川崎の町であってほしい、市長にも応援してほしい、そう思っています。</p>
市長	フロアの校長先生方からもお話いただけたらと思いますがいかがでしょうか。
学校長	<p>〈西中原中学校 安部 賢一 校長〉 本校は、大変大きな学校で学区も広いので、現在開講している大谷戸小学校を使わせていただいて寺子屋が開講できるように準備を進めていると聞いております。そのために、本校では、毎週月曜日を部活休みにして、そういった事業にも御協力できるように参加できるように環境を整えていきたいと思っています。</p> <p>〈御幸小学校 滝口 太志 校長〉  本校は、まだ、寺子屋が開講していないのですが、前任校で大島小におりまして宮越さんには大変お世話になって、地域の方の力は偉大だな。といつも感じております。是非、御幸小学校でも寺子屋をつくっていききたいな。と思って今日は来ました。ありがとうございます。</p> <p>〈大師小学校 室賀 俊二 校長〉 私、校長3校目で宮前平と土橋で私が居るときに寺子屋を開講していただきました。そのときに地域の教育力というのを感じました。先程、眞壁さんが「お子さん達が落ち着かないとき私達も勉強しました。」と素晴らしいことを仰っていましたが、土橋でも寺子屋の時間に子ども達が解放されたかのように感じることがあり、私は、地域の方にこれ以上迷惑をかけられないから、学校の先生達を寺子屋にお手伝いさせようかと思ったんです。そしたら、「それは大丈夫です。先生達は先生達の仕事をしてください。」とおっしゃってくださったんです。今日の発表の方、パネルの方も子どもに寄り添うっていう我々に足りない、欠けたんじゃないかな。と思うことを大切にしていました。私達はやはり目標があり評価があり高めていきたいと必死なんです。寺子屋先生は、自分たちも楽しむ、子ども達にとことん寄り添っていくんだ。というそんな意識の高い方々ばかりで私も本当に勉強になりました。ありがとうございました。</p>  
教育長	先程、宮越さんがおっしゃった「学校だけでは子どもは育たない。」私もその通りだと思います。地域の方々のお力を頂き、川崎の子ども達は育っていますが、これから、ますます御協力をいただく状況になると感じています。G I G Aスクール構想で川崎市でも子ども達にひとり1台のパソコンを5年かけて渡して行く予定だったのですが、これもコロナの関係で、来年度の4月1日からという形になりました。コロナ禍で子ども達が3ヶ月間学校に行かなかった。これは明治4年の学制始まって以来のことです。誰もが経験したことのない中で、色々な課題が浮かび上がってきましたが、その中で学校の果たしている役割は何なのかということが非常に大きくクローズアップされました。学校というのは、オンライン授業とは違って人とのつながりの中で、しかも、多様なつながりの中でみんなで学び合っていく、そういう学びであるということが非常に大きく浮かび上がってきました。来年以降、あっとい間にみんながパソコンを使いこなすということではありませんが、教育が、学校が本当に大きく変わっていきます。その中でも大事なものは、今まで学校が果たしてきた役割という

	<p>部分です。学校でも様々な工夫をして子ども達に必要な力をつけていきますが、本当に学校だけでは育たない、今まで以上に地域の方々の御協力をいただくひとつの大きな場として、寺子屋があります。その中で子どもや寺子屋先生など様々なつながりが生まれてくる寺子屋、本当に誰にとっても大きな意味を持つ事業だともっています。どうぞ、これからもよろしくをお願いします。</p>
市長	<p>今日、ここにお越しの皆様、そして寺子屋に携わっているすべての皆様方に感謝申し上げます。まだまだ、開講できていないというところもありますが、この良さを広めて頂き、地域の皆さんが立ち上げていくといいなと思っています。今日、改めて寺子屋が子ども達にとって大切な居場所であったり、色んな関わり方ができる居場所であったり、あるいは、自尊心を育む場所であったり、或いはわからないことがあったら褒めてもらえる場所であったり、というように色々な形があるということを改めて皆さんと一緒に確認させていただきました。是非、もっともっと広げていきたいと思っています。</p> <p>改めてこのコロナ禍にあって、いろんなことを深く考える時間が皆さんあったかと思うのですが、川崎も非常に大きな都市になりました。産業都市といった意味ですと発展してきたわけですけど、川崎の発展の歴史というのは地方から人を呼んできてそこで家族をつくって大きくなってきました。三世代で同居している世帯は、川崎では3%ぐらいだと思います。でも地域のおじいさんおばあさんはたくさんいるし、地域の孫というのはたくさんいるわけです。</p> <p>いろんな形で多世代がお互いを必要とされ、そして認め合うようなそういう社会づくりのひとつの機関として装置として寺子屋というのが素晴らしいものに毎年進化している。そう、私は思っています。それはすべてここに関わっていただいている方達が切磋琢磨しあってもっともっと子ども達のためと思って下さっているという結果がいいものに段々つながってきているかな。という風に思っています。</p> <p>是非、コロナ禍、まだ続きますけれどもそれでも感染対策は行いながらも絆はしっかりと切らないという寺子屋の取り組み、或いは地域の取り組みをこれからみんなで頑張っていきたいという風に思っています。</p> <p>また、来年もいい寺子屋づくりのために御協力をいただければという風に思います。ご参会いただいた皆さん、本当に今日はありがとうございました。</p>





アンケート結果

回収枚数 29枚

男性55.1% ・ 女性44.8%

(問) これまで寺子屋事業に関わる事業に参加されたことはありますか

1. 寺子屋先生、コーディネーターをしている 55.1%
2. 寺子屋先生養成講座に参加したことがある 24.1%
3. 市民館等で開催される寺子屋に関する学習会に参加したことがある 20.7%
4. はじめて参加した 27.6%

① 今回のフォーラムにどの程度満足されましたか	1. 満足 58.6% 2. どちらかという満足 41.4% 3. どちらかという不満 0% 4. 不満 0%
② フォーラムに参加して、新たな気付きはありましたか	1. あった 75.9% 2. どちらかという、あった 24.1% 3. どちらかという、なかった 0% 4. なかった 0%
③ 今回のフォーラムは、子どもや地域のことを考えるきっかけとなりましたか	1. なった 72.4% 2. どちらかという、なった 27.6% 3. どちらかという、ならなかった 0% 4. ならなかった 0%
④ 今回のフォーラムで、寺子屋事業のことが分かりましたか	1. よく分かった 75.9% 2. どちらかという、分かった 24.1% 3. どちらかという、分からなかった 0% 4. 分からなかった 0%
⑤ 寺子屋の活動に関心を持ちましたか	1. 関心を持ち、今後参加してみたい 44.8% 2. 関心は持った 20.7% 3. 関心を持たなかった 0% 4. 今までも参加している 34.5%

(参加者の感想)

- ・ 今回のようなオープンテラス方式は、市民への周知からも良いアイデアだと思います。
- ・ 各寺子屋の良い点、改善点等のオープンより3年毎、6年毎の通信簿（評価）が欲しい。
- ・ 大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 体験学習に関心を持っていた私にとって、トークセッションの中で工夫していること、うまくいかなかったことの改善点（段位授与、親の分も工作材料を用意）を聞くことができ多いに参考、勉強になった。参加させて頂きましてありがとうございました。
- ・ 勉強を教えるだけでなく、一種のコミュニティ支援のような「いるだけ支援」という役割が非常に興味深かった。社会人になっても、寺子屋に参加したいと思うので、高津区内の小学校における実施時間を知りたいです。
- ・ 各寺子屋のコーディネーターの方々のお話が聞けて有意義な時間でした。子ども達も楽しめ、自分も楽しんでいきたいと思います。
- ・ 非常に為になった！！

- ・平成26年から始まった寺子屋事業が定着してきています。それぞれの寺子屋はコーディネーターと先生、ともに努力されているところが手にとるようにわかりました。また、川崎市の取組体制がしっかりしているので、寺子屋事業はより良くなると思います。私は、寺子屋先生として今回のフォーラムに参加して今後の活動の参考にすることができました。
- ・ろう学校の寺子屋学習支援の様子が発表され大変勉強になりました。
- ・発表者の方々、パネラーの方々の志がすばらしく大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・それぞれの学校でやり方はちがうが、先生たちは子どもを思い、力になりたいとがんばっています。
- ・「ほめる」重要性を再認識できた。今後、子どもと接する時に、少し意識しようと思います。学校だけでは子どもは育たない！
- ・他の寺子屋の方から良い意見をいただき、今後の参考にさせていただきます。
- ・第1部は、異なる事例を短い時間で学ぶことができ、とてもよかったと思います。第2部、市長の進行役、良かったですよ。とてもわかりやすい進行ぶりでした。ありがとうございました。
- ・色々参考になりました。パネル展示にもありましたが、様々な体験学習が各々でされています。交流する機会、情報交換する機会があると良いな。と思いました。
- ・「学校だけでは育たない」そうですね。「寺子屋先生は評価しない先生」という言葉や、「いるだけ支援」も心に響きました。
- ・各学校の寺子屋パネル紹介、活動内容などとても参考になりました。
- ・寺子屋シール、子ども達喜びますね。今後、作成してみます。
- ・「いるだけ支援」いい言葉でした。
- ・いままで学習面ばかり気にしていたが、居場所になるだけ「いるだけ支援」、子どもに寄りそうことの重要性にも気付いて良かった。今日はありがとうございました。
- ・他の寺子屋の様子を聞いてよかった。
- ・映像ワークショップは何がいいのかよくわからなかった。説明がうまくなかったように思う。
- ・寺子屋を生涯学習の拠点にしようと考えているようだが、これには無理がある。寺子屋よりわくわくの方が子どもとの距離が近い。
- ・「社会づくりのひとつの機関、装置」という市長の言葉が最後のすべての理解につながりました。ありがとうございました。

地域の孫
褒める

寺子屋先生は評価しない先生

いるだけ支援

つながり

2020年「地域の寺子屋推進フォーラム」
心に残った言葉

子どもに寄りそう

学校だけでは子どもは育たない

地域の寺子屋推進フォーラム開催に多くの方の御協力と御尽力を頂きありがとうございました。